

注文票

注文FAX 048-432-7335			
氏名:	住所:	電話:	FAX:
	〒		
新書版 144頁		注文数	
定価: 本体 1300円+税		部	
2003年12月20日発売			
<p>日本僑報社刊行日中関係の本</p> <ul style="list-style-type: none"> ●『日中「新思考」とは何か』 ●『日中関係に対する戦略的新思考』 ●『中国人特派員が書いた日本』 ●『永遠の隣人 人民日報に見る日本人』 ●『日中相互理解とメディアの役割』 ●『日中ホンネで大討論!』 ●『中国人の見た日本』 ●『日本華僑華人社会の変遷』 ●『華僑社会の変貌とその将来』 ●『中国人の日本奮闘記』 ●『中国の1万2967人に聞きました。』 ●『私が出会った日本兵』 ●『つくる会の歴史教科書を斬る』 ●『新中国に貢献した日本人たち』 			

「対日新思考」論議の批判的検討

新たな対話の枠組みを求めて

北海道大学大学院国際広報メディア研究科教授 高井潔司著

対日外交をめぐる、中国・人民日報の馬立誠評論員が発表した論文「対日関係の新思考」が日本、中国両国で、華々しい論議を巻き起こした。

この論議を概観すれば、日中関係がぎくしゃくした関係に陥っている中で、その打開の方向を示したという高い評価が日本で与えられたのに対し、中国側では馬氏を日本に媚びる「媚日派」と罵倒する声さえ上がるなど、日中間の現状をそのまま反映したような状況となった。中国側には、馬論文がかえって日中関係を悪化させたという論文まで現われた。

本論では、馬論文が中国国内に広がる過剰な民族主義と反日感情を戒めただけの問題提起に過ぎないとの立場から、一連の論議の中で発表された代表的な論文のいくつかを分析する一方で、論議の背景を探り、責任大国へと中国が脱皮を試みの中で生じている葛藤である点をまず明らかにしたい。またその分析を通じて、新たな日中関係を構築するための議論の枠組みを提唱したいと考える。実際に各論文を分析してみると、極端な民族主義者は別として、賛成派、反対派ともに日中関係の重要性を認識していることがわかる。そのような観点に立てば、馬論文を一つの問題提起として、今後の日中間の対話の枠組みも自ずと見えてくると筆者は考えている。



関連書籍のご案内

- 時殷弘著『中日関係に対する戦略的新思考』
- 金熙徳・林治波著『日中「新思考」とは何か』
- 高井潔司著『日中相互理解とメディアの役割』
- 漢語迷編『日中ホンネで大討論!』

目次

- 第一部 日中関係を脅かす過剰な民族主義
- 第二部 「対日新思考」論議の批判的検討
 - 第一章 背景と狙い
 - 第二章 馬立誠論文を巡る批判的論議の特徴
 - 第三章 新たな対話の枠組み
- 第三部 胡錦濤政権の対日外交の読み方
- 第四部 第二部の抄訳(中国語)と資料

著者略歴 高井 潔司(たかい きよし)

北海道大学大学院国際広報メディア研究科教授。1948年、神戸生まれ。1972年東京外国語大学中国語科卒、読売新聞社入社、テヘラン特派員、上海特派員、北京支局長、論説委員を歴任。99年1月北海道大学教授に就任。主な著書に『中国報道の読み方』(岩波アクティブ新書2002年)、『21世紀中国の読み方』(蒼蒼社1999年)、『甦る自由都市上海』(読売新聞社1993年)。編著に『現代中国を知るための60章』(明石書店2003年)日中コミュニケーション研究会の代表として、ここ数年日中間のコミュニケーションギャップの軽減を訴えてきた。